

解脱

よく昔から、解脱という事をきくが、此言葉は簡単に善し惡しを決める事は出来ない。世間普通の解釈による解脱とは迷いを去り、悟りをひらくとか、執着をとるとか、諦めをよくするとかいう意味であつて、之は無論仏教から出たのであるが、然し何となく逃避的隱遁的響きがあり、之は東洋人特有の思想であらう。

処で、實際からいうと、余り悟りがひらけ過ぎると、活動力が鈍るのが通例である。勿論競争意欲などはなくなり、民族にしても、印度の如く衰亡する事になる。故に人間は迷う事によって生きる力が出るのである、と言って迷いすぎるのも之又危険がある。又諦める事も活動力が鈍るきらいがある、といって余り諦めないと男女関係などは悲劇を生む事にもなる。だからあんまり解脱して了うのも

面白くない。遂には世の中が馬鹿々々しくなり、孤独的になったり、生ける屍となったりしてう。

以上の諸々を考えてみると、何でも行き過ぎがいけない。ツマリ程を知る事である。全く世の中は難しくもあり、面白くもあり、苦しくもあり、楽しくもあるというのが実相である。結局苦樂一如の文字通りが人間のあるがままの姿である。然し之だけの話では結論がつかないから私は結論をつけてみよう。

曰く人間は諦めるべき時には諦め、諦めない方がいい事は諦めないようにする。迷う場合は無理に決めようとするからで、決断がつかない内は時期が来ないのだから、時期を待てばいいのである。要は時所位に応じ、事情によって最善の方法を見出す事である。然しそうするには叡智が要る。叡智とは正しい判断力を生む智慧であつ

て、それは魂に曇りがない程よく出る。故に魂の曇りをなくする事が根本で、それが即ち誠である。誠とは信仰から生れるものであって、此理を知って実行が出来れば、大悟徹底した人というべきである。

（地二十号 昭和二十六年一月二十五日）